

- 遠野市の平成25年度農作物被害額は約1億6,300万円、獣種別で見ると98%がニホンジカによる被害。
- 実施隊員の高齢化によりわなの見回りが困難になり、農作物被害額が増加。
- 市内10地区に編成された実施隊班毎に、農家を中心としたニホンジカ捕獲応援隊を設置。
- 応援隊の設置4年後には、有害捕獲頭数が2倍以上、そのうち、わなによる捕獲頭数は約10倍まで増加。
- ニホンジカによる農作物被害額は平成25年度をピークに減少し、平成29年度は約半分（約7,900万円）まで減少。

遠野市の課題

- シカ対策として、平成24年度までは実施隊による捕獲活動と電気柵購入助成を実施。
 - 実施隊員の高齢化に伴い、わなの見回りも困難に。
- ⇒ 農作物被害額が年々増加。
25年度には1億6300万に。

獣種	被害額（千円）
シカ	1億5900万円
クマ	400万円

ニホンジカ捕獲応援隊の設置

- 県の「第11次鳥獣保護事業計画」における「狩猟免許を所持しない者が補助者として捕獲に従事できる」仕組みを基に、農家を中心としたニホンジカ捕獲応援隊を設置。
- 応援隊1人にくくりわなを1基貸し出し、応援隊の所有農地等に設置。
- わなの管理や見回りは応援隊員が実施し、止め刺しは実施隊員が実施。

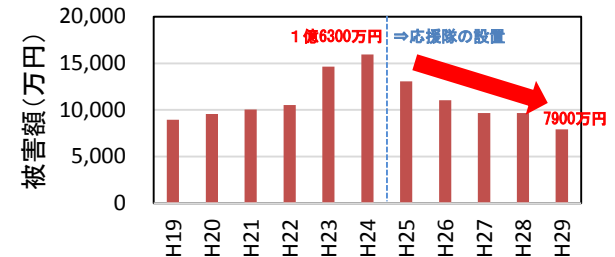
導入の効果

- 応援隊の設置により、有害捕獲頭数が2倍以上増加するとともに、わなによる捕獲が約10倍に増加。

年度	→ 応援隊設置後		
	H25	H26	H29
有害捕獲数(頭)	516	1,015	1,264
内わな捕獲数(頭)	85	485	847

約10倍に増加

- シカの農作物被害額は25年度をピークに減少、29年度は約半分まで減少。

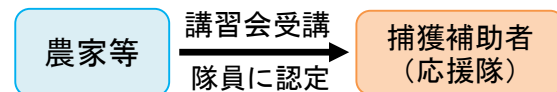


- 実施隊と応援隊の役割分担により、地域ぐるみによる捕獲を推進

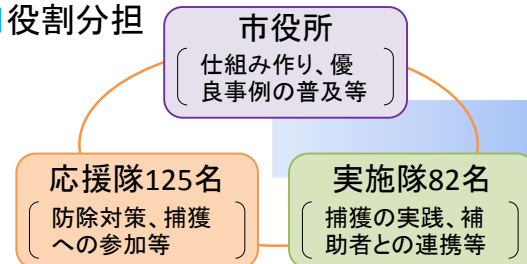
<ニホンジカ捕獲応援隊の仕組み>

■ 応援隊員の認定

市主催の安全講習会(年1回)を受講することで捕獲活動の一部へ参加可能に



■ 役割分担



地域ぐるみでの効率的な有害捕獲が可能に

【今後の課題】

- 地区によっては、シカによる農作物被害額が増加したところもあり、より一層捕獲の強化を行っていきたい。

きっかけ（～H24）

実施隊員の高齢化に伴い、
わなの見回りが困難に・・・
ニホンジカによる被害は歯
止めがかからず、農作物被
害額が年々増加し、H25年
度には1億6300万円に

Step1 (H25)

第11次鳥獣保護計画の策定

- 県の鳥獣保護計画に「狩猟免許を所持しない者が補助者として捕獲に従事できる」と規定。

Step2 (H26)

ニホンジカ捕獲応援隊の設置

- 市主催の安全講習会を年1回受講することで捕獲活動の一部に参加可能(わなの管理や見回り)。
- 設置初年度(H26)の応援隊登録者数は農家を中心に81名、わな捕獲88頭。
- 市内に編成された実施隊10班それぞれに応援隊を設置。

飼料作物、水稻
の被害が中心

- ・農地の適正管理
- ・わなの管理や見回り
- ・被害対策の情報収集 等

遠野市

- ・仕組みづくり
- ・ノウハウの蓄積
- ・優良事例の普及

応援隊

- ・捕獲の実績
- ・捕獲の向上
- ・応援隊との連携 等

実施隊

結果

地域ぐるみでの効
率的な有害捕獲が
可能に

応援隊を設置してから、わな
による捕獲頭数は年々増加

取組を経て...

取組の秘訣

- 被害対策を実施隊に一任するのではなく市民(農家)と共有。
- 市民参加型で捕獲効率を上げる。
- 参加型から新たな担い手を発掘する。

応援隊設置後、実施隊員数も増加
(H25:67人 → H29:82人)

取組による成果

- 応援隊設置4年後に、応援隊登録者は125名、わなによる捕獲頭数が約10倍に増加。
- ニホンジカによる農作物被害額は平成25年度をピークに減少し、平成29年度は約半分。
- 応援隊員が狩猟免許を取得し、実施隊員になるケースも。